

令和5年度 学校評価自己評価表 【最終】(2月)

【学校教育目標】 ふるさと作木を愛し、新しい時代をたくましく生きる児童の育成 ー元気 本気で 最後までー

三次市立作木小学校

中期 経営目標	短期 経営目標	目標実現の ための方策	評価指標	目標 値(%)	達成 値(%)	達成 度(%)	評 価	自己評価	関係者 評価	ご意見	改善策
確かな学力 の定着	主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善	・複式指導の充実 ・算数科の授業づくり ・ICT活用	・三次市学力到達度検査(算数の活用)において全国平均を上回る児童の割合	70	50	71	3	・学力検査の結果、算数(活用)は、全国平均を13.0ポイント下回った。研究授業等を通して、学校全体の指導力の課題を明確にできず、授業力向上に向けて具体的な取り組みをすることができなかった。今回の学力検査の結果を受けて児童の課題をしっかりと把握し来年度に引き継ぐとともに、教員の指導力向上に向けて一層取り組んでいきたい。	A	・算数科において4年生と5年生は全国平均を上回り、全体でも基礎は+2.6ptで昨年度より良い結果です。取組の成果が少しずつ表れていると思います。 ・3年生の算数が全国平均をかなり下回っているため課題としてください。 ・小規模校なので、割合で評価することは難しいのではないかと思います。 ・学力定着と授業力育成の早急な取組が必要。	○今回の学力検査の結果を受けて児童の課題をしっかりと分析し来年度に引き継ぐとともに、教員の指導力向上に向けて研修方法の見直しを図っていく。
	基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着	・読書活動の充実 ・常学習の実施(漢字・読解・計算の力の定着)	・単元末テスト(国語・算数)80点以上の児童の割合	70	53	75	3	・1学期と比較すると、80%以上の児童の割合は増加した。しかし、半数近くの児童がまだ80%未満である。改めて、ドリル等を活用し、学習の基礎となる知識や技能の定着を図る。	A	・国語科、算数科ともに80点以上の児童の割合が増加しています。地道な努力の成果だと思います。少しずつ伸びを積み重ねて、やがて大きな成果につながることを期待します。 ・単元末テストの結果が、半数近くの児童が80%以下であるのは、これも課題である。 ・高学年ほど読書量が減ってきているのは残念。 ・家庭学習時間確保の生活スタイル確立を。	○読書活動や帯タイムは、児童の意欲を持続できるように工夫を加えながら計画的に取り組む。
豊かで健やかな心身の 育成	自己肯定感の向上	・特別活動の充実 ・教育相談の実施 ・日常的な評価の工夫	・児童アンケート、i-Checkにおける「自己肯定感」「思いを伝える」「お互いを認め合う」項目の肯定的回答	80	86	108	5	i-Checkにおける肯定的回答は85.6%であった。マラソン大会など、目標に向かって最後までやり抜く場面があった。児童会と連携してあいさつ運動にも取り組むことができた。	A	・前回もすばらしい結果だと思いましたが、今回特に「お互いを認め合う」が9割以上の児童が肯定的評価で、作木小学校の集団づくりのすばらしさを感じます。 ・子どもたちの実態とあっていないと感じる。 ・「自己肯定感」「お互いを認め合う」は素晴らしい数値だけど、「思いを伝える」がなぜ低いのか表現力の問題ですか？	○運動会や学習発表会等の行事で目標に向かってやりぬくことを通して自己肯定感等を向上させていく。 ○児童の間でのトラブル等があった際にも、お互いが納得できるように思いを伝える場をもつ。
	基礎体力の向上	・体育科授業の改善 ・外遊びの奨励 ・業間体育の実施	・新体力テスト結果のAB率	60	56	93	4	AB率は56%であった。重点課題である握力の達成率は25%から50%、20mシャトルランは50%から67%と向上が見られた。しかし、50m走は、50%から33%と低下した。長縄跳び大会など児童が意欲をもって体力を高める行事を設定することができた。	A	・子どもたちが意欲を高めるように、さまざまな工夫をしておられるので、楽しみながら体力づくりができています。 ・目標値が60はやや甘いかな。しかし児童が元気でいければそれで良いと思います。	○体力テストの県平均や校内の歴代最高記録などを示し、自分の目標を立てさせ、意欲的に取り組んでいけるように環境を作る。
		・生活リズムの改善(小中連携・家庭啓発)	・就寝時刻の目安を守っている児童の割合	70	68	97	4	就寝時刻を守っている児童は67.9%。来年度以降も計画的に早寝について児童へ継続して指導するとともに保護者へも情報発信をしていく。	A	・どちらの目標値も80にしてください。特に、就寝時刻は翌日の授業に影響する大切なことです。	○学級指導をはじめ、保健指導や掲示、保護者へ向けての情報発信など継続して取組を進めていく。
・メディアに関する家庭のルールを設けている家庭の割合	70	64	91	4	メディアに関する家庭のルールは64.4%。啓発資料を作成し、学校だよりやHP等で周知した。引き続き、児童へ指導するとともに保護者へ向けても情報発信していく。	A	・メディアに関する家庭のルールを設けている家庭の割合が、前回より増加しており、粘り強く啓発活動を続けておられることがわかります。	○児童や家庭へ課題意識を持ってもらえるように情報発信をする機会を積極的に設定し、啓発していく。			
愛され信頼される地域とともにある学校	積極的な情報発信	・学校・学級・保健便り等の計画的な発行 ・HP更新	・保護者の学校評価アンケートにおける学校満足度に関する項目の肯定的評価の割合	85	89	105	5	目標を上回る達成値であった。日頃のHP更新やお便りなどの地道な取組を評価していただいている。しかし、中には、もっと学校の様子を知らせてほしい、また、日常的に情報交換をしてほしいという要望もあり、今後改善の余地がある。	A	・これも数値では前回より評価が上がっていますが、保護者の方からは厳しいご意見が多いですね。私も時々HPを見ていますが、学校の様子がよくわかります。 ・89%もの高評価を得ているのは、学校の頑張りを感じます。	○保護者からの厳しい意見に対しても真摯に向き合い、丁寧に誠実な対応を行うよう全職員が留意する。
	作木ふるさと学習の充実	・オリジナルカリキュラムの評価改善	・保護者の学校評価アンケートで「作木のよさを知り大切に思う」児童の割合	90	91	101	5	作木のことについて学ぶ機会を持ち、ふるさとに学ぶ取組を実践してきた。また、学校運営協議会の皆様のご協力もあり、今後もさらに、保護者と一緒に、作木についての学びを深める機会を多くもてるように計画的に実践する。また、小中の一貫性が図られるように見直しを行う。	A	・学校運営協議会の一員として、お役に立てているかどうか自信ないのですが、これからは作木の子どもたちのためにできることを、ともに考えていきたいです。 ・いいですね。いうことはありません。	○総合的な学習や生活科での取組を継続して行い、地域とともに歩む学校づくりをする。 ○小中連携による一過した指導となるよう計画を見直す。
	子供と向き合う時間の確保	・業務の精選と効率化 ・一斉退校日の設定 ・職員の意識改革	・「子供と向き合う時間を確保している」「自分は業務改善を進めることができた」と回答する職員の割合	80	88	110	5	職員の意識改革はかなり進んでいる。しかし、一方で、「確かな学力」を身に付けさせるための授業研究や授業準備等、「子どもと向き合う時間」の内容について整理し、取組の焦点化、重点化を行っていく必要がある。	A	・休憩時間や放課後はもちろん、日々の授業の中で、一人一人の子どもたちとしっかりと向き合うために、さらに研鑽を積み重ねよう応援しています。 ・肯定的評価が88%は素晴らしい。否定的評価の部分は、今後の先生方の活躍に期待したいと思います。	○さらに「子どもと向き合う時間」に対する考え方を見直し、特に教材研究や授業づくりに費やす時間を確保する。

5 100%以上 目標を十分達成している。 4 80%~100%未満 目標を概ね達成している。
 3 60%~80%未満 目標をやや下回っている。 2 40%~60%未満 目標を下回っている。 1 40%未満

A 自己評価は適正 B 自己評価は適正でない C 判断できない

ふるさと作木を愛し、新しい時代をたくましく生きる児童の育成 ー元気 本気で 最後までー